



ホア ビン (平和)

HOA BINH LE PORT

JVPF 内閣府認証 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議(日越友好連)
NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079
c/o. IFCC.#405, TsujiBLD, 333, Yamabuki-cho, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079
http://ifcc1985.com jvccpf@rmail.plala.or.jp



会費/正会員:(個人)5,000円 (団体)50,000円 口座名/日本ベトナム平和友好連絡会議
◎郵便振替 00110-2-188872 ◎三菱東京UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキュー)店(当座)0188872

JVPF 2014 春訪問団

ラムドン省

ダラット少数民族高校奨学金授与式

高校はダラット市の高台にあり周囲を緑に囲まれ静かな環境である。

到着後、校長室に案内されロイ校長から学校の説明を受ける。

●校長先生の説明内容

ベトナムは54の民族で構成され、人口の約8割はキン族であり、少数民族は53民族存在する。

ラムドン省には全部で9校の少数民族のための学校がある。そのうち8校は小・中学校で高校は此処の1校だけである。

学制は小学校5年間、中学校4年間、高校3年間、大学4年間で義務教育は小・中学校の9年間である。

この高校では14の少数民族の学生が学んでいる。

学生たちは全寮制で学費、生活費は国から支給されている。

この高校の生徒は皆真面目で、一生懸命勉強しており、ラムドン省の中でも成績は優秀である。生徒は100%卒業し、45%は大学に進学している。

●授与式

10時50分頃から体育館で授与



鹿児島JVPF代表たちと一期奨学生たち

JVPF 2014 春訪問団は1月21日～26日、総勢8人で実施。ハノイでベトナム友好委員会連合を表彰訪問。フート省少数民族高校奨学金授与式。南西部高原地帯のラムドン省で枯葉剤爆弾被害者協会(VAVA)で聞き取り、及び枯葉剤被害者家庭訪問。同省でラムドン省少数民族高校での奨学金授与式。南西部ビンフック省枯葉剤被害者協会(VAVA)で聞き取り、及び被害者家庭訪問。——と、盛りだくさんのプログラムとなりました。

式がはじまった。体育館いっぱい500人を超える生徒と先生方に拍手で迎えられた。

オープニングは男女2人の生徒による民族音楽の歌と女子生徒10人による民族舞踊が披露された。

校長先生のあいさつ

ユーモアたっぷりのあいさつで生徒たちからは頻りに笑い声が聞こえてきた。

最後に校長先生が「私たちの学校の生徒は本当に真面目で、よく勉強する、優秀な生徒たちだけです」といった趣旨の話をされたようで、ひととき大きな笑いを誘っていた。

JVPF 鹿児島支部川路団長あいさつ

私たち3人(山下、菊川)は日本の南、鹿児島という所からきた。

これまで、鹿児島の支援者はJVPFの一員としてプート省の少数民族の生徒を支援してきた。

今年度から鹿児島支部として独立してあなた達の学校の生徒を10人支援させていただくことになった。

ベトナムの人たちは勤勉だと聞いている。アメリカに勝ち、勤勉な国民性のベトナムは必ずや日本に負けない経済発展と遂げるであろうことを信じている。

そのベトナムの高校生への支援をさせていただくことは我々の喜びだ。

・奨学金授与式

10人の奨学生にそれぞれ奨学金を手渡した。

・奨学生の感謝の言葉

私たちのためにわざわざ日本から来ていただき感謝申し上げます。

私たちは、この奨学金を大切に使い夢の現実に向けて頑張ります。

・ボールペン贈呈式

川路団長から校長先生に生徒及び先生方約560名分のボールペンを贈呈
・閉会

●奨学生との交流会

授与式の後、奨学生10人と会議室にて交流

・奨学生から、将来の進路、夢、自宅から学校まで来るのに必要な時間などを聞き取りした。

・進路について

医学部に行き医者になり多くの人を助きたい。 5名

師範大学に行き化学、及び英語の先生になりたい。 2名

法律を勉強して弁護士、政治家になりたい。 1名

経営管理を勉強して社長になりたい。 1名

・農林業大学校に行きたい。

1名
医者を目指す生徒が多かったが、政府が少数民族の生徒に医学を学んでもらい出身地域で医療に従事してもらう政策をとっているという背景もあるようだ。

このため、通常は難しい医学部への入学も少数民族の生徒には俗にいう下駄をはかせているとのこと。万一、医学部受験に失敗しても予科があり1年後には医学部に入学できる。予科にも不合格の時はさすがに医学部への入学は難しい。

・親の職業は大半が農業だった。これは、少数民族の住居地域が農山村部にあることによると思われる。

・奨学生からの質問

「日本に留学するにはどうしたらよいか」

JVPFの鎌田副理事長が日本語2級の資格を取ることが必要と回答したが詳細には回答できなかった。

「日本が成長した原因は何か」

難しい質問でいろんな要因があるが教育と平和だと思いと回答した。

・最後に奨学生の代表から

「私たちのために来ていただき感謝申し上げます。期待に応えられるように頑張ります」という謝辞がなされた。

●最後に高校の玄関で校長先生、奨学生とともに記念撮影をしてお別れした。

最初、授与式の会場である体育館に足を踏み入れた時、歓声と拍手で迎えられ、生徒全員の眼がキラキラと輝き、あふれるような笑顔に満ちていたことが衝撃的だった。このように瞳と笑顔を最後に見たのは何時だったかなと思わず考え込んでしまった。

この学校は、フランス統治時代にフランス人と裕福なベトナム人の子弟教

育のために建設されたもので伝統と格を誇っている。木造モルタルの校舎だが掃除も行き届いており秩序を感じた。学生寮は男子寮、女子寮に分かれており外見だけしか見なかったが整然としたたたずまいだった。(菊川)

●プート省少数民族高校生に奨学金を授与

NPO法人JVPF副会長 松浦正美
(NPO法人ウオータービジョン理事長)

1月22日(水)、35名のプート省少数民族高校生に奨学金を贈呈するために「2013冬ベトナム友好訪問団」の一員として同高校を訪問した。

2008年の夏、奨学金の授与の打合せに訪問して以来、毎年同校を2回訪問しているの

ので、今回で12回目の訪問。

・奨学金の授与式は、

全校生徒が出席して新装なった講堂で行われた。新たに奨学生となった新一年生10名の内5名が高校卒業後、医



第6期プート省少数民族高校奨学生達

科大学に進学して、医者になる夢を抱いていました。その理由を尋ねたところ、「自分が育った少数民族の村には、お医者さんがいなくて、困っているから」と云うものでした。

各地から集まった生活習慣の異なる少数民族の生徒達が3年間同じ寄宿舎で寝食を共にする貴重な経験を積むと共に、将来の夢が実現できることを期待しながら奨学金を授与してきました。

●奨学生の故郷を訪ねました。

鹿兒島 菊川明

プート省の少数民族高校を2013年5月に卒業し帰郷したザイ族のニヤムさんの故郷を訪問した。

ハノイからの道中、水牛を使った代掻き、人手による田植えを見て今後この風景がいつまで続くか興味がわいた。

山間部に入り、道の両側に茶畑が広がる赤土の未舗装の道路が続きしばらくして目的地に到着。出発後4時間経過。

・到着後、

ニヤムさんと新郎、それぞれのご両親、親戚一同の歓迎を受ける。

親戚の方が「ザイ族の人生の目標は三つ。

一つ目は結婚。二つ目



は水牛を買うこと。三つ目は家を建てること。このうち、一番簡単なのが結婚。水牛は1頭15〜25万円、家はお金がかかるので大変」と話してくれた。

歓迎の宴が始まる。料理は茹でた鶏肉、豚肉、自家製のソーセージ等と白御飯。薄味でニョクマム、塩を付けて食べる。酒は焼酎に木の皮や草を漬けたもので薬草酒のような味がした。

枯葉剤爆弾被災地を調査・慰問

JVPF2014春訪問団

ラムドン省被害者協会訪問

(1月24日午後)

鹿兒島 川路孝

・副会長ロウさんと2〜3人の事務局の方に対応していただいた。

・場所は、人民委員会の建物内

・ラムドン省内の状況説明を受けた後意見交換を行った。

・ラムドン省内の状況説明では、

ラムドン省内には、約2千人の被害者がいる

その内、ダラットには198人

殆んどが軍人 2世もいる

・ロウさんの孫(18歳・女性)も、体が変化。左足が1cm短い。3世だ。

・患者は、25歳から82歳。死亡者は、肺・肝臓・神経の癌だ。

・重い病気で動けない人もいる。また、いつ病気になるか判らない。出たら死亡すると思う。

ほろ酔い機嫌になり「静かな山里で、明確な人生の目標を持ち、水稻を栽培、家畜を飼い、余ったコメは販売し、親戚中が助け合い、年に数回集まって宴会を開く。物質的には恵まれないが精神的には豊かな生活と思ったが4時間弱の滞在では本質はわからないと思うつつ帰路についた。

・自分は、1965年から1972年に、

3回攻撃を受けた。1回は、3日後には大きな木が無くなった。

・カンボジアの国境近くまで。当初、枯葉剤とは知らなかった。

・ダラットは、直接攻撃は受けなかったが、南西の方が受けた。ダラットの患者は、戦場で受けて帰ってきた人。

・自分の家族の中で、2つの家族は、子供が出来ない。

・政府は、戦争参加者だけ補償。人民には援助がない。かわいそう。3世の時代は大変。

・今日の訪問先は、82歳の父と子供たちのところ。

・アメリカ政府への賠償請求を考えたが、今は考えていないが、外国からの援助があればありがたい。

・日本からの援助については、ありがたい。みんなに伝える。

・訪問団 17種以外の症状への賠償無いが、知っていますか。

ロウさん 政府の政策がある。

・訪問団 あつてもなくても生活できるから、それ以上求めないのか。

ロウさん 500人ぐらい調査中。軍人以外の調査はない。殆んど少数民族だ。

・訪問団 相談する人や相談するところはあるのか。

ロウさん 政府は面倒みているが、生活は大変。被害者協会の全員ではない。

・訪問団 今会員で困っていることは。

ロウさん 生活が貧しい。医療費は無料だが、子供は、20%必要。たくさん掛るなら治療はしないで死んでいる。

・訪問団 被害者協会の活動は、

ロウさん 2年前、2000ドンもらって、みんなに配ったが、今はない。スポンサーから求めたい。

8月10日は、枯葉剤の日。金集めて、困っている人に配る。

被害者協会でホームページもっている。口座も載せている。

・訪問団 ダラットは、金持ち多そうだが、地域の人から支援はあるのか。

ロウさん あまりない。店の看板に協力要請の表示している。

・訪問団 病院など施設はあるのか。

ロウさん 市の土地はあり、25人ぐらい治療しているが、多くない。

ケアセンター必要だが、先生がいらない、働く人がいない。

医者の診療は無料だが、ホテルや食事など本人負担で厳しい。

・訪問団 もっと調査すべきでは？ アピール不足では？

具体化の判断材料ないのでは？

・訪問団 2000人の内訳は？

ロウさん 少数民族が10%

・訪問団 全国での話し合いはないのですか。

ロウさん 全国は金がない。集まるところと考えていない。

戦地との交流はない。

カンパの要請する。

ラムドン省で家庭慰問

鹿兒島 山下順子

ウエン・ディン・ツェさんを訪ねて

1月24日午後VAVAの役員の方と共に豊かとは言えないたずまいのウエン・ディン・ツェさん宅を訪ねた。

86歳のツェさんは手が震えている。1944年に軍隊に入り、ファンチー・ビンキー県でフランス軍と戦い、また60年

から67年にかけてファンチー、フエでアメリカ軍と戦い働き盛りを戦争に捧げた人であった。

66年と67年に2回敵に捕まり刑務所で拷問を受け、手の震えはその後遺症だという。妻も軍人だったがすでに死亡しており、子供は6人。ツェさんと一緒に私

たちを迎えてくれたのは44歳の長女。彼女は一人で歩くことが困難で姪らしき人

に支えられ椅子に腰かけた。聞き取りの間、顔の表情はほとんど変わらず一言の

声も発せられなかった。ツェさんによると言葉は話せたり、話せなかったりという事であった。

また、5人目の子供(男性)は精神疾患を患い、最近住宅を焼失させ、その時

彼の妻もなくなっている。孫は8人いたが、そのうち二人は既に死亡。枯葉剤が原因とツェさんは考えている。(どこで被爆したか聞けなかった。)

国からの補償はツェさんが月に350万ドン・長女は月110万ドンである。(1ドンは約200〜250分の1円)

手の震えがなければ一見健康そうに見えるツェさんであるが、妻の死・子供の発病・孫の死と大きな苦悩を背負っているのであろう。健康であればできるであろう農作業も十分できない状況の中で国の補償が生活を支えていることに甘んじているためか語り口は静かで将来に対する希望は聞けなかった。

日本の原爆の被爆2世・3世が生まれているように、ベトナムには枯葉剤被爆2世・3世が数多く生まれている。今後さらに綿密な調査のもとに我々ができる支援のあり方を探るとともに、共に生きるための支援をしていきたい。



ビンフック省枯葉剤被害者調査

香川 豊島和治

2014年1月25日11:00

JVPFの枯葉剤被害者支援活動一環としてホーチミンから約100km、カンボジア国境の枯葉剤被害の大きかったビ

ンフック省で被害者家庭慰問を実施した。

まず、ビンフック省庁舎会議室で県副知事やVAVA(被害者協会)の会長・副支長・支部長などと会談、米軍から800万ℓの枯葉剤(ダイオキシン含有360kg・致死量400万人/g)が撒かれビンフックで軍隊などに4000人以上の被害に対し、国からの援助は906人で25歳から82歳というのが現状、ガンでなくなるのが一番多いとのことでした。また、肺・肝臓・神経性疾患などあり、当初の米国基準の17病症被害者に対してのみ被害者認定とのことであった。被害の範囲は、すでに第3世代に移っているが、半世紀たった現在でも全てを調査できていないため、軍関係者以外にも大勢の被害者が存在していると思われる。多くの人は、ガンの恐怖や健康被害など障害の不安を引きずって生活している。VAVAの活動は、被害者の家の建築やリハビリ訓練の支援、家庭訪問、子供の学資支援などが必要と考えているが、国からの補助では全然足りていないことからVAVAのホームページで義援金募集や商店などに置く募金カンパ活動など様々な活動を実施しているとのことでした。

米国は、自国の兵士に対する被害者救済(現在25病症)は行なっているが、ベトナムに対する被害者補償などは行っていない。改めて、米国が世界の各地域で起こしてきた戦争の悲惨さと化学兵器(枯葉剤・サリン・劣化ウラン弾)使用問題、人権無視・戦後補償の問題に対し、国際社会が恒久平和を目指すために何が

必要であるか前向きに議論すべきと感じた。

続いて、被害者家庭慰問で最初にバオ・チエン82歳宅(農家)を訪問。出身は夫婦とも現在地で1962年から軍隊参加。子供を5人授かったが2人亡くなった。長女(1958年生)は結婚して3人の子供が出来たが一番目の子は23カ月で病死。2人の孫を儲ける。現在、妻と長男バオ・コンカイ(1961年生)、孫(1985年生)と生活。生活は国から本人200万 VND、長男(無職)50〜60万 VND、孫(ダウン症)100万 VND、妻には援助なしの状況であった。副知事や関係職員等と大勢の訪問で緊張されて言葉少なめであったが、日本からの慰問ということで感激した様子であった。



次に、二番目の慰問先へ異動。○氏名

聞き忘れ○74歳(農家・ゴム)を訪問。出身は現在地で1957年から軍隊で郵便業務に従事していた。1964年に枯葉剤が3回撒かれ、1回目に高い木、2回目に中間の木、3回目に低い木の順番で枯れていった。屋外で直接被害にあった時の状況は、枯葉剤が雨のように降り注ぎ目が真っ赤に充血、身体じゅうの関

節が痛くて悲鳴を上げていた。本人の症状は、慢性的な胃痛と背中を一度手術したものの

一日に複数回の左肩神経が痙攣をおこし左腕がひきつる症状が発症。訪問中3回も発症。



そのたびに二男が腕伸ばしをしななければならない状況であった。二回の婚姻歴があるが、1回目(1968年)の子供は死亡した。2回目の長男も死亡。二男ウエンミンカイ(1970年生)は下肢に障害。三男は脳に障害があるものの生活に直接支障はない。当時、妻は父親が死亡し、軍隊と一緒に生活していたが影響は出ていない。他に孫(8歳)がいるが影響は今のところない。生活は、国から本人200万 VND、二男70万 VND、三男と妻はないとのことだった。他にゴム園500本を任せられ週三回の収穫日に40万 VND/日あり、被害者の中でも裕福な家庭と思われたが、日々の激痛や何世代にも続く後遺症不安等悲惨な状況を抱えながらも終始笑顔で我々に応対して頂き、胸が痛む思いであった。

ベトナム戦争から半世紀以上経過した後、戦争被害に苦しむ人々が多く存在することを忘れてはならない。平和の尊さを改めて感じさせて戴いた訪問だった。

資料

2014年01月25日

【ビンフック省ホンワン県の枯葉剤被害状況 報告】

ビンフック省人民委員会はJVPFとの会議にあたり、以下、ホンワン県の枯れ葉剤被害者情報について報告する。

1—被害者協会について

枯葉剤被害者協会(VAVA)2010年10月06日に設立。執行委員は13人。13人中女性が3人、男性が10人。役員は会長1人、副会長1人。事務所は赤十字と共に仕事をしている。

2—被害者の特徴と生活状況

①被害者の数量

ホンワン県の枯れ葉剤被害者は46人が保護されている。被害者は80人存在しており、男性が53人、女性が27人。ホンワン県13の村のうち12の村に居住している。アンクウン村には被害者いない。

②被害者の年齢と病気の情報。

71歳から80歳まで6人。61歳から70歳まで12人。50歳から60歳まで16人。50歳以下46人。

直接、枯葉剤を浴びた被害者は今ほとんど病気。病気は神経や癌や糖尿病などで34人。

保護対象は良い生活の人が4人、平均の生活の人が33人、平均以下の人が9人、生活困窮者はいない。

3—被害者の仕事。

両親の世代はほとんど病気なので家で子供たちのために手伝うだけ。

子供の世代はほとんど病気のせいで労働できない。脳障害がなく肢体不自由な場合田舎で農業をやるとか工夫して仕事を仕事している。

4—協会の被害者支援の方針

枯葉剤被害協会(VAVA)は設立後4年間支援活動をしてきたが、まだまだ困ることが多い。現在、協会の委員会は被害者支援の状態を把握して活動をすすめている。被害者の生活を安定させ、治療を提供すること。毎年二回、8月10日【枯れ葉剤会合開催記念日】とお正月(テト)に協会は枯葉剤被害者家庭を慰問し寄付をしている。

2010年から今まで支援の合計は1.136お土産個の値段は285.000.000ドン。2014年お正月(テト)の時は80人の被害者に300.000ドン相当の支援物資を贈呈。協会として、被害者の困窮状態を視察して2軒の「仁愛家」を建てる。「仁愛の家」の値段は45.000.000ドン。また、ホンワン県労働・傷病兵・福祉局は農業銀行と協力し2軒の「仁愛の家」を建て寄付した。値段は60.000.000ドン。以上

広がる友好交流

日越友好交流コンサートが成功裏に開催さる

さる5月9日、ホーチミン市のホーチミン国立音楽院ホールで「日越友好交流コンサート」(主催…角田音楽企画、共催…ホーチミン国立音楽院、後援…ホーチミン日本国総領事館、協力…日本ベトナム平和友好連絡会議(JVPF)、ホーチミン市友好連合委員会(HUF

ン)が盛大に行われました。これは角田音楽企画代表の角田和弘さんが2012年9月、ハノイで公演の機会を得て以来、そのベトナムへの友好の気持ちを、特に若い日越の音楽家たちの交流を通じて取り組みたく、JVPFに協力を依頼、2013年9月からホーチミン国立音楽院と企画について協議し準備してきたもの。

公演は、400人の会場一杯の観客(会

場からあふれた人)となり、日越の音楽家たちによるベルカントの歌声は観客を魅了しました。特に、日本の歌をベトナムの音楽家が、ベトナムの歌を日本の音楽家が唱うプログラムの工夫は多くのベトナム人の観客を楽しませました。また、日本の若い音楽家、音楽家たちはホーチミン国立音楽院の音楽科の学生たち(約50人)と交流会を持ち、音楽教育の仕組み、内容、卒業後の仕事など多岐にわたり意見交換しました。滞在中、日本の若い音楽家、音楽家たちはホーチミン市全盲学校を慰問し、双方の出し物で交流公演、寸志を寄付してきました。



ホーチミン国立音楽院ホールでの終演の様

◆ 掲示板 ◆

- 一、8月8日からJVPF埼玉連絡会は中部クアンナム省の枯葉剤被害者支援訪問団実施。被害者への「仁愛の家」寄付など行い、8月10日の「枯葉剤爆弾投下」に行われる行事に参加。
- 二、例年、8月に実施してきた「タイピン・ボランティア」は、準備が整わず、12月予定のJVPF友好訪問団の際に合わせて計画。
- 三、2014年度秋ベトナムアンサンブル公演は、別表のよう
- 四、広島のHVPFはクアンナム省少数民族高校生奨学金授与のため11月ごろ訪問予定。
- 五、枯れ葉剤爆弾被害者支援調査のためのJVPF友好訪問団は12月初旬計画。詳細は9月にご案内。
- 六、枯葉剤被害者追跡DVD製作のための現地取材クルーを計画。今年度内に製作。
- 七、2015年4月の「南部解放・統一40周年」を記念した訪問団を計画。ご予定を要請します。

第7回 総会報告

“ディエンピエンフーの戦い”(5月7日が記念日)から60周年、
来年の“サイゴン解放”(4月30日)は40周年、友好の年にしていくことを確認



中央は総会で挨拶する村山富市市長

さる5月24日、東京で第7回総会が開催され総会議案を採択しました。以下、内容要約を報告致します。また総会ではJVPF村山富市市長、駐日ベトナム社会主義共和国ドアン・スアン・フン大使の挨拶を受けました。

I、2013年度事業報告 (一)号議案、要約

【組織活動】

——2013年度は、JVPF活動開始13年目で、同時に日越外交関係樹立40周年の年でもあり、9月にハノイで日越外交関係樹立40周年記念行事が行われ、村山会長も招待され参加しました。このイベントでは

ベトナム友好委員会連合から佐藤晴男・副会長、大西繁治・理事長、及川光行事務局長に「友好勲章」が授与されました。同時にJVPFが推薦した個人、団体が表彰を受けました。

——40周年を記念して劇団わらび座がハノイ、ホイチミン市で開催した「友好公演」についてJVPFは全面的に協力し成功を収めたことも特筆すべき出来事でした。また日越外交関係樹立40周年記念の事業として、8月には埼玉JVPFがクアンナム省友好委員会連合と、10月には広島HVPFがクアンチ省友好委員会連合と、それぞれ協力し現地で40周年行事を行いました。

——以下略——

【事業】

1、教育支援事業(1)

——少数民族出身高校生奨学金支援
フット省での少数民族高校生奨学金支援事業は中止となりました。広島ベトナム平和友好協会のクアンチ省、社團

法人・時遊人のニンビン省は継続中で、新規に鹿児島JVPFがラムドン省で開始しました。

2、教育支援事業(2)

——村山記念JVPF日本語学校

「再建方策」に基づく事業(留学センター事業、奨学金付自販機設置活動)の展開は進展せず。

育英基金のよる支援は2013年8月で終了。9月以降、経営の目途をつけてきており、少年少女宮殿でも日本語教室の開設(無料)、JAICA

2013活動計算書	
経常収益	5,633,737
受取会費	795,000
寄付金	0
助成金	0
事業収益	2,011,560
その他	45,025
経常費用	2,782,152
事業費	1,602,792
管理費	1,179,360
当期経常増減額	69,433
経常外収益	0
経常外費用	0
当期正味財産増減額	69,433
前期繰越正味財産額	-276,311
次期繰越正味財産額	-206,878

2013年度貸借対照表	
資産合計	233,132
1 流動資産	233,122
現金預金	30,622
売掛金	202,500
2 固定資産	0
負債合計	440,000
1 流動負債	440,000
未払金	240,000
前受金	50,000
短期借入金	150,000
2 固定負債	0
前期繰越正味財産額	-276,311
当期正味財産増減額	69,433
正味財産合計	-206,878
負債及び正味財産合計	233,122

委託による専門大学の日本語教育への教師派遣、分校(教室)開設など行っています。また、学校運営支援として日本の企業から寄付金もいただきました。

JVPF福岡支部がハノイ大学と2013年8月開設した「日本語・文化・教育促進センター」の活動展開と提携していくこととし新年度で具体化を図っていきます。

3、国際協力事業(1)

——枯葉剤被害者支援のためのキャンペーン活動
枯葉剤爆弾被害の調査と支援は、前年度の南部地域の調査を皮切りに、未だJVPFとして足を運んでいない地域への実態調査を継続してきました。「2013春友好訪問団」(5月)で中部高原地帯のダクラク省、「2013年1月友好訪問団」で南東部のラムドン省、ビンフック省で実施してきました。枯葉剤爆弾被害の範囲の広さ、奥に深さにあためて感嘆させられました。JVPFの活動の柱として、被害者のところに足を運び、聞き取り、そして記録していくことを肝に銘じていきたいと思ひます。

また、埼玉JVPFはクアンナム省で医療器具支援、「仁愛の家作り支援」を続け、広島HVPFも激

戦地クアンチ省で被害者支援を実施してきました。

4、国際協力事業（2）

——枯葉剤爆弾被害者「自立支援プログラム」

タイビン省リハビリ施設で「滞在ボランティア」（2013年8月）実施してきました。

5、国際協力事業（3）

——ベトナム民族アンサンブルチャリティコンサート

2013年度は東日本を中心に13か所で開催しました。他にライブ公演一回、特別支援学校公演一回、長崎くんち祭り参加、など友好大使としての活動も行いました。

また協力をいただいた開催地と相談し「東日本大震災被災者支援・フクシマ原発事故被害者支援」もテーマに掲げ、支援金を作ることが出来ました。

6、国際交流事業（1）

——いけばな交流
実現せず

7、国際交流事業（2）

——村山日本語学校高校生夏季日本研修
条件整わず、実施できませんでした。

8、その他の事業（1）

——会員及び企業の交流支援事業及び事業展開への協力

わらび座の日越国交40周年友好公演開催に協力し、成功を収めました。

II、2014年度事業計画（三号議案、要約）

【組織活動】

——2014年度は、JVPF活動開始14年目（結成1999年）となり、来年度は15周年を迎えます。同時にベトナムの南部解放・統一40周年を迎える前年ですので、今年度からいろいろと準備をしていき

たいと思います。2015年4月30日の記念日にあわせて訪問団を計画したいと思っています。

——組織の強化発展のために以下のことを進めていきます。（以下、略）

【事業】——要約——

1、教育支援事業（1）

——少数民族出身高校生奨学金支援

2、教育支援事業（2）

——村山記念JVPF日本語学校

3、国際協力事業（1）

——枯葉剤被害者支援のための活動

4、国際協力事業（2）

——枯葉剤爆弾被害者への「自立支援プログラム」

5、国際協力事業（3）

——ベトナムアンサンブルチャリティコンサート

6、国際交流事業（1）

——いけばなデモンストレーション

7、国際交流事業（2）

——小中生夏季日本研修

8、その他の事業（1）

——会員及び企業の交流支援事業及び事業展開への協力

III、定款変更について（六号議案）

従たる事務所（香川県高松市浜ノ町60—77 香川県自治労会館内）を廃止することにしました。従ってそれに伴い定款を変更することの承認、可決しました。

IV、選出された役員体制（五号議案）

会 長 村山富市（再任）

副会長 佐藤晴男（再任）、川渕映子（再任）、

松浦正美（再任）、富岡 勉（再任）、

赤木達男（新任）、山下 茂（新任）

2014ベトナムアンサンブル公演日程（調整6月1日）

2014年度は19年目のチャリティコンサートを迎えます。未だ、開催予定数に至りません。開催地確保のためご協力をお願い致します。

10月05日（日）	鹿児島市／中央公民館ホール
10月06日（月）	宮崎・延岡市／総合文化センター小ホール
10月07日（火）	熊本・山鹿市／八千代座
10月08日（水）	（未定）
10月09日（木）	大分・豊後大野市／エイトピアおおの
10月10日（金）	（未定）
10月11日（土）	福岡市内（会場未定）
10月12日（日）	移動日
10月13日（月・休）	広島・尾道市／公会堂ホール
10月14日（火）	（未定）
10月15日（水）	（未定）
10月16日（木）	（未定）
10月17日（金）	（未定）
10月18日（土）	兵庫・尼崎市女性センターホール
10月19日（日）	香川・丸亀市／アイレックスホール
10月20日（月）	移動日
10月21日（火）	神奈川・藤沢市／商工会館多目的ホール
10月22日（水）	埼玉・朝霞市／市民会館ホール

理事長 大西繁治（再任）

副理事長 鎌田篤則（再任）、金光秀人（新任）

事務局長 及川光行（再任）

事務局次長 宝田公治（再任）

※理事役員は上記役職の方々を含め40人。

新任理事 羽根正憲、伊藤剛、田中翔、岡田新一、

金子豊貴男、金光秀人

監 事 田中秀樹（新任）

なお、以下の方が役員を退任されました。

砂川 保（副会長）、当麻 実（理事）、

野田邦治（理事）、油田 清（理事）、

田中秀樹（理事）、日高邦夫（監事）

友好勲章授与祝賀懇親会が 開催されました

5月24日の第7回総会後、友好勲章祝賀懇親会が開かれました。祝賀会には駐日ベトナム社会

主義共和国ドアン・スアン・フン大使、村山富市JVPF会長はじめ多くの関係者のご列席をいただき挨拶を受けました。

この祝賀会は昨年9月、ハノイで開催されました「日越友好40周年行事」で、永年、ベトナムとの友好活動に尽力してきた関係者に友好勲章の授与がなされ、JVPFでは佐藤晴男副会長、大西繁治理事長、及川光行事務局長がベトナム友好員会連合のホン会長より拝受したことを祝賀したものです。

このハノイでの40周年行事では、JVPFが友誼団体や個人を推挙し、以下の方々が友好賞状を授与されました。団体として長野ベトナム交流協会、埼玉ベトナム平和友好連絡会、広島ベトナム平和友好協会、社団法人・時遊人、わらび座、個人として日本軍が関与した「100万人餓死事件」の真相を追求してきた黒川吉衛さんらです。

祝賀会には、2012年ハノイで友好演奏会を開催した明大マンドリン倶楽部常任指揮者・甲斐靖文様、及び交流委員・大竹利之様、2013年12月日越40周年記念公演をハノイ、ホーチミンで開催した「わらび座」の小島克昭代表、2012年10月工芸技術指導をハノイで行った竹工芸家・毛利健一様、2013年6月



祝賀懇親会で挨拶されるドアン・スアン・フン駐日ベトナム大使（右端）

広島JVPF記念行事で歌を披露したハイチウ様、2014年5月ホーチミンでベルカント・オペラ交流公演を行った角田和弘様など。ハイチュウさんと、角田さんは歌を披露され宴を盛り上げていただきました。

ヴィンさんの ベトナムでのコンサート

ふえみん婦人民主クラブ 渡辺美里

私たちは、毎年JVPFが開催する「枯葉剤爆弾被害者支援コンサート」に参加しており、なかでも、グエン・テ・ヴィンさんの演奏するギター「チン・コン・ソンの音楽」に魅せられている。ヴィンさんは、子どもの頃両親を亡くし、自らも貧しくて怪我の治療を受けられず、右手を失ったが、ギターに出会い、苦心の

末、右手だけでギターの演奏する方法を会得したそう。そういうヴィンさんの経歴を聞いて、私たちが支援する児童養護施設「希望の村」の子どもたちに、ぜひ聴かせたいと思っていたが、今年3月、やっと実現することができた。

ヴィンさんの演奏が素晴らしいかったことは言うまでもないが、同じような境遇の子どもたちに、ヴィンさんは、優しく、熱心に、そして力強く、語りかけてくれた。子どもたちも身を乗り出すように、ヴィンさんの言葉に耳を傾けていた。最後は、ヴィンさんのギターの伴奏で、「希望の村」の子どももマイクを持って歌い出した。「ふえみんベトナムツアー」に参加した里親たち、「希望の村」に同居している老人ホームのお年寄りたちも素晴らしい音楽を楽しむことができた。

またほかの場所でも公演をしてもいい、ダナン、ホイアン在住の日本人たち、ベトナム人にも協力をお願いして、ヴィンさんの運営する養護施設にもいくらか寄付をすることができた。



十年を迎えた長野ベトナム友好協会

信州大学工学部外国人留学生との懇談会

2013年12月6日、信州大学技術振興センターで各国から信州大学に留学している優秀な学生を支援する目的で開催された。

第一部では3名のベトナム女性がパワーポイントを使って学んだことや日本での生活を上手にまとめて発表した。

第二部の懇親会は、当協会について初めて聞くという学生もいました。学部内では来年度からはベトナムからの留学生が一番多くなるとのことでした。

第2回ワールドフェスタin長野

2013年11月17日、もんぜんプラザで「おお、地球人ワールドフェスタIN長野2013」が開催された。それぞれの国の文化を紹介するブース出展や多彩なステージ発表、世界の民族衣装試着など、国際色豊かなイベントとなり会場には昨年を上回る700人が参加しました。東京からは東大大学院に留学している男性とその奥さんがダンバウの演奏者として来てくれました。女性はアオザイを身にまとい、男性はベトナムの青いTシャツで彼らが持ってきたベトナムの土産物を販売し、その収益はベトナム少数民族の子どもの教育費として贈られています。また、2014年度は当協会設立10周年にあたり、9年間の歩みや写真、季刊誌「ボーソン（川岸）」を掲載して当協会の足跡を展示しました。

（会報ボーソンNo.27より抜粋）